作成年月日：2023年12月18日

安全データシート

１．化学品及び会社情報

化学品の名称・品番： ドライ潤滑スプレー・DCRC-200
会社名： ジェフコム株式会社
住所： 〒579-8014　大阪府東大阪市中石切町3-13-16
担当部門： 品質課
電話番号： 072-988-3813
FAX番号： 072-988-3800
主な用途： 防錆・潤滑剤

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性：

エアゾール： 区分１

健康に対する有害性：

急性毒性（吸入：蒸気）： 区分４
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）： 区分４
皮膚腐食性/刺激性： 区分２
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 区分２
生殖細胞変異原性： 区分２
特定標的臓器毒性（単回ばく露）： 区分１（循環器系）
区分３（麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）： 区分１（神経系）
区分２（肺・皮膚）

環境に対する有害性：

水性環境有害性　短期（急性）： 区分１
水性環境有害性　長期（慢性）： 区分１

*記載がないものは区分に該当しない、分類対象外又は分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語： **危険**

危険有害性情報： 極めて可燃性の高いエアゾール
高圧容器：熱すると破裂のおそれ
皮膚刺激
強い眼刺激
吸入すると有害
眠気又はめまいのおそれ
遺伝性疾患のおそれの疑い
臓器の障害（循環器系）
長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害（神経系）

長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（肺、皮膚）
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き：

安全対策： 使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置： 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当を受けること。
気分が悪いときは、医師に連絡すること。
気分が悪いときは医師の診察/手当てを受けること。
特別な処置が必要である。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
火災の場合：消火に泡、散水、噴霧水、炭酸ガスを使用すること。
漏出物を回収すること。

保管（貯蔵）： 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

廃棄： 内容物は使い切り、容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性:
可燃性ガスが入っている。引火及び高温による内圧上昇により破裂の恐れがある。
液化ガスが皮膚に触れると凍傷を生じる恐れがある。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要：
情報なし。

３．組成、成分情報

内容成分	CAS No.	濃度 wt%	化学式
イソヘキサン	107-83-5	10～20%	C6H14
シクロペンタン	287-92-3	0.1～1%	C_5H_{10}
n－ヘプタン	142-82-5	0.1～1%	C_7H_{16}
シクロヘキサン	110-82-7	0.1～1%	C_6H_{12}

n－ヘキサン	110-54-3	0.1～1%	C_6H_{14}
鉱油	非公開	0.1～1%	非公開
フッ素化合物	非公開	5%未満	非公開
シリコーン化合物	非公開	5%未満	非公開
プロパン	74-98-6	10～20%	C_3H_8
イソブタン	75-28-5	20～30%	C_4H_{10}
ノルマルブタン	106-97-8	40～50%	C_4H_{10}

※イソヘキサンは、2,2-ジメチルブタン、2,3-ジメチルブタン、2-メチルペンタン、3-メチルペンタンの 4 異性体の合計。GHS 分類については、2-メチルペンタン(CAS№107-83-5)で実施。

４．応急措置

以下のいかなる場合も、必ず医師の手当てを受けること。

吸入した場合： 大量に吸い込んだ場合、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移す。
暖かく安静にし呼吸しやすい姿勢で休息させる。
呼吸が不規則か止まっている場合には気道を確保し、人工呼吸または酸素吸入を行う。
気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合：
付着物を布にて素早く拭き取る。
多量の水と石鹸(又は皮膚用の洗剤)を使用して充分に洗い落とす。
大量に付着したり、全身にかかった場合は、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、流水又はシャワー等で十分に洗い流す。
ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水又は温水で洗い流す。
溶剤、シンナーは使用しない。
外観に変化がみられたり、痛みがある場合には医師の手当てを受ける。

眼に入った場合： 清浄な水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外す。その後も洗浄を続けること。瞼及び眼球の隅々まで洗眼する。
眼が開けられない場合、無理にあけさせない。
できるだけ速やかに医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合： 水で口の中を洗い、安静にして、直ちに医師の診断を受けること。
揮発性の高い物質を含んでいる為、無理に吐かせるとかえって危険な場合がある。
(化学性肺炎を引き起こす可能性がある)
自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。
嘔吐物は飲み込ませない。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
医師の指示による以外は無理に吐かせない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:
皮膚刺激
強い眼刺激
吸入すると有害
眠気又はめまいのおそれ
遺伝性疾患のおそれの疑い
臓器の障害（循環器系）
長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害（神経系）
長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（肺、皮膚）

応急措置をする者の保護：

換気を行う。

救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク、保護手袋、保護衣等)を着用する。

火気及び着火源に注意する。

医師に対する特別な注意事項：情報なし。

５．火災時の措置

消火剤：　泡、散水、噴霧水、炭酸ガス、粉末 (容器を冷却し容器内圧を上げないもの)

使ってはならない消火剤：棒状注水

特有の危険有害性：

加熱により容器が爆発するおそれがある。

内容液等が放出する恐れがある。

内容液等は極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に引火する。

火災時に刺激性、毒性及び腐食性のガスを発生するおそれがある。

空気と爆発性混合気を形成する。

気化した噴射剤や有機溶剤は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動し、遠距離引火の可能性がある。

特有の消火方法：移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

容器が熱に晒されているときは、移さない。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火活動は十分距離をとって、風上から行う。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護：

適切な保護具(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、空気呼吸器等を装備する。

消火活動は十分距離をとって、風上から行う。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。

風上に留まる。低地から離れる。

密閉された場所に立ち入る前に換気する。

漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行う。

容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。

高濃度のガスを吸入した場合、窒息の恐れがあるので陽圧自給式呼吸器等、呼吸器保護具を着用する。

環境に対する注意事項：

河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意すること。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

必要であれば、関係省官庁等へ速やかに連絡する。

封じ込め及び浄化の方法・機材：

液体吸収材、乾燥砂等の不燃性のものに吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し後で処理をする。(吸収したものを集める際には清潔な帯電防止工具を用いる)

回収物には可燃性の気体が溶解しているため、回収直後に密閉してはいけない。

気体を放出させてから容器を密閉する。

衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

蒸気発生の多い場合は噴霧注水で蒸気発生を抑制する。

二次災害の防止策：

付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
火花を発生しない工具を使用する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
ガス等が拡散するまでその場所を隔離する。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い：技術的対策（局所排気、全体換気等）：

取り扱う場所の近くに、洗眼や身体を洗浄できる設備を設置する。
静電気対策のため装置等は接地し、電機機器類は防爆型(安全増型)を使用する。
作業衣、作業靴等は導電性の物を使用する。
工具は火花防止型の物を使用する。

局所排気・全体排気：

取り扱う場合は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱う。
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業する。
気化した噴射剤や有機溶剤は空気より重く低い場所に滞留しやすい。使用するにあたっては、空気中の酸素濃度が低くなる危険性があるので、密閉された場所や換気の悪い場所で取り扱わない。

安全取扱注意事項：

すべての安全注意をよく読み理解するまで取り扱わない。
使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにする。
ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する-禁煙。
ミストを吸入しない。
火炎に向かって噴射してはならない。
容器が破裂する恐れがあるので、温度が高くなる場所に置かない。
休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
取り扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。
混触禁止物質と接触しないように注意する。
環境へ放出させないこと。

接触回避： 「１０．安定性及び反応性」を参照。

衛生対策： 取扱い後はよく手を洗う。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しない。

技術的対策： 静電気放電に対する予防措置を講ずる。

保管条件： 幼児の手の届かない所に置く。
直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
缶が錆びて内容物が漏出又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避ける。
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する-禁煙。
40℃以上になる所には置かない。
混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
その他、消防法、労働安全衛生法等の法令の定めるところに従う。

安全な容器包装材料：

高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。
容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。
爆発を伴って残留物が発火する事がある。

８．ばく露防止及び保護措置

内容成分	管理濃度　ppm	許容濃度（ｐｐｍ）		
		日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
イソヘキサン	未設定	未設定	500ppm	1000ppm
シクロペンタン	未設定	未設定	600ppm　1720mg/m^3	情報なし
n -ヘプタン	未設定	200ppm	400ppm	500ppm
シクロヘキサン	未設定	150ppm,520mg/m^3	100ppm	未設定
n-ヘキサン	40ppm	40 ppm140 mg/m^3 (皮)	50ppm	未設定
鉱油ミスト	未設定	3mg/m^2	5mg/m^3	10mg/m^3
プロパン	未設定	未設定	未設定	未設定(C,EX)
ブタン	未設定	500ppm/1200mg/m^3	未設定	1,000ppm (EX)

※安全衛生情報センター、NITE CHRIP 記載データ等に基づく
※許容濃度が設定されていないものは省略している。

設備対策：　排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
取扱い設備は防爆型を使用する
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
取扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄の為の設備、機器又は局所排気装置を使用し、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。
タンク内部等の密閉場所で作業する場合には密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

保護具　必要に応じて着用する。下記保護具は推奨であり、選定には保護具メーカーや専門家等の意見を聞いて実施すること。

呼吸器の保護具：　有機ガス用防毒マスク、(密閉された場所では)送気マスク等

手の保護具：　保護手袋(不浸透性、耐薬品性等)

眼の保護具：　保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面等

皮膚及び身体の保護具：
保護衣(長袖、不浸透性、導電性)、導電性の靴、前掛け等(耐溶剤性)等

９．物理的及び化学的性質

物理状態	エアゾール：色、臭い：内容液及び噴射剤の物性及び化学的性質参照
可燃性	エアゾール GHS 区分：　区分 1 燃焼熱：　50　kJ/g 以上 可燃性/引火性成分の合計：　100 wt% 着火試験：　データなし 爆発試験：　データなし
その他のデータ	内圧：　0.35　MPa

内容液		液化石油ガス
外観（物理的状態、形状、色）	淡黄色・液体	大気圧下ガス状、圧力容器内：液状 無色透明
臭い	溶剤臭	無臭（工業用無臭ガス以外は着臭）
ｐＨ	データなし	データなし
融点・凝固点	データなし	エタン：—183℃（融点） プロパン：—189.7℃（融点） ノルマルブタン：—138℃ イソブタン：—160℃ ノルマルペンタン：—129.67（融点） イソペンタン：—159.9℃（融点）
沸点、初留点と沸騰範囲	62℃（イソヘキサン）	エタン：—89℃（沸点） プロパン：—42℃（沸点） ノルマルブタン：—0.5℃ イソブタン：—12℃ ノルマルペンタン：36.06℃ イソペンタン：—27.8℃
可燃性	可燃性液体	可燃性ガス
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	データなし	エタン：3～12.5 プロパン：2.1~9.5 ノルマルブタン：1.8~8.4 イソブタン：1.8~8.4 ノルマルペンタン：1.4~8.0 イソペンタン：1.4~7.6
引火点	—20℃ （イソヘキサン）	エタン：—130℃ プロパン：—104℃ ノルマルブタン：—60℃（密閉式） イソブタン：—82.99℃ ノルマルペンタン：<—40℃（CC） イソペンタン：＜—51℃（密閉式）
自然発火温度	285℃（イソヘキサン）	エタン：472℃ プロパン：450℃ ノルマルブタン：287℃ イソブタン：460℃ ノルマルペンタン：260℃ イソペンタン：420℃
蒸発速度	データなし	データなし
燃焼性（固体・気体）	データなし	データなし
蒸気圧（40° C）	データなし	エタン: 3.85 MPa (20℃) プロパン: 0.84 MPa (20℃) ノルマルブタン: 0.214 MPa (21.1℃) イソブタン: 0.304 MPa (20℃) ノルマルペンタン: 0.053MPa (18.5℃) イソペンタン: 0.079 MPa (20℃)
相対ガス密度	データなし	エタン：1.050

		プロパン：1.600 ノルマルブタン：2.100 イソブタン： 2.010 ノルマルペンタン：2.500 イソペンタン：2.500
密度（相対密度）	0.67(20℃)	エタン：0.572　　(-108.4℃/4℃) プロパン：0.585　　(-45 ℃/4℃) ノルマルブタン：0.579　(20 ℃/4 ℃) イソブタン： 0.600 ノルマルペンタン：0.626 (20℃/4℃) イソペンタン： 0.600
n-オクタノール/水分配係数	データなし	エタン： 1.81　　（推定値） プロパン： 2.35 ノルマルブタン：2.89 （推定値） イソブタン： 2.80 ノルマルペンタン：2.36 イソペンタン：2.30　　（推定値）
分解温度	データなし	データなし
動粘性率	データなし	非該当
溶解度	水に不溶	エタン：47mg/L　　(20℃水) プロパン：62.4 mg/L　　(25℃水) ノルマルブタン：61 mg/L　(20℃水) イソブタン：48.9 mg/L　　（水） ノルマルペンタン：360 mg/L (16℃水) イソペンタン：48mg/L　　(25℃水)
粒子特性	データなし	非該当

10. 安定性及び反応性

反応性： 40 ℃以上になると破裂の恐れがある。
高温の表面、火花又は裸火により発火する恐れがある。

安定性： 通常の使用において安定している。

危険有害反応可能性: 可燃性のガスであり、空気と爆発性混合ガスを形成し易い。
液化石油ガスは、酸化性物質(プロパン:二酸化塩素、ブタン:ニッケルカルボニル+酸素)と激しく反応する。

避けるべき条件： 高温多湿な場所での保管及び火気(火炎、スパーク等着火源)の近くでの使用。
40℃以上の高温、直射日光、静電気、衝突、火気。

避けるべき材料： 高温多湿な場所での保管及び火気(火炎、スパーク等着火源)の近くでの使用。
40℃以上の高温、直射日光、静電気、衝突、火気。

混触危険物質： 酸化剤。

危険有害な分解生成物： 燃焼等により有害なガス(一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド、フッ素化合物／フッ化水素　ハロゲン化合物等)を発生する。

その他の有害性情報： 蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。

１１．有害性情報

有害性は、内容液と噴射剤に分け有害性を判断した。噴射剤がガス又は気体として有害区分に該当する場合は記載した。

急性毒性（経口）：　データ不足のため分類できない。　毒性が未知の成分を 88.8%含有。
急性毒性（経皮）：　データ不足のため分類できない。　毒性が未知の成分を 93.8%含有。
急性毒性（吸入：ガス）：　本品はエアゾール:GHS 定義による気体ではない。噴射剤は区分に該当しない。
急性毒性（吸入：蒸気）：　ATEmix=15518.9ppm のため、区分 4 に該当。
急性毒性（粉じん又はミスト）：ATEmix=1.5mg/l のため、区分 4 に該当。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：　区分 2 の成分合計が濃度限界(10%)以上のため、区分 2 に該当。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：
眼区分 2+眼区分 2B の成分合計が濃度限界(10%)以上のため、区分 2 に該当。
呼吸器感作性：　データ不足のため分類できない。
皮膚感作性：　データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性：　区分 2 の成分が濃度限界(1%)以上のため、区分 2。
発がん性：　データ不足のため分類できない。
生殖毒性：　データ不足のため分類できない。
分類に寄与しない成分:区分 2 を含む。
授乳に対する、授乳を介した影響区分：
データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：分類に寄与しない成分（区分２　血管系、肺）を含む。
噴射剤の液化石油ガスは区分１（循環器系）、区分３（麻酔作用）に該当。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分 1(神経系）該当成分が 1-10%のため、区分 2(神経系）に該当。
区分 1(肺、皮膚）該当成分が 1-10%のため、区分 2(肺、皮膚）に該当。
噴射剤の液化石油ガスは区分１（中枢神経系）に該当。
区分２（神経系）：区分１（中枢神経系）区分１（神経系）
誤えん有害性：　本品はエアゾールであり、GHS 定義による固体、液体ではないため分類できない。
内容液はデータ不足のため分類できない。
その他：　液化ガスが皮膚に触れると炎症や凍傷を起こす恐れがある。

１２．環境影響情報

生態毒性：　製品データなし
n-ヘキサン
甲殻類(オオミジンコ)での 48 時間 LC50=3.88 mg/L(EHC122,1991)
n-ヘプタン
急性甲殻類(ミシッドシュリンプ) LC50　96 時間 0.1 mg/L(HSDB、2006)
シクロヘキサン
甲殻類(オオミジンコ)による 48 時間 EC50=0.9 mg/L(EU-RAR, 2004)
藻類(Pseudokircheneriella subcapitata)による 72 時間 NOEC=0.94 mg/L
(EU―RAR, 2004)
残留性・分解性：　製品データなし
ヘプタン：良分解性
シクロヘキサン： 急速分解性有
ヘキサン： 良分解性
生体蓄積性：　製品データなし
ノルマルヘプタン：Log Pow = 4.66
シクロヘキサン：低いと推測される　BCF＝31～129
ノルマルヘキサン：生態蓄積性が低いと推定される（log Kow＝3.9）
土壌中の移動性：　製品データなし

オゾン層への有害性： モントリオール議定書に規制されている物質を含まない。
その他： 現在のところ有用な情報はないが、漏洩、廃棄等の際は環境に影響を与える恐れがあるので注意する。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物： 関連法規制並びに地方自治体等の基準に従い、適切な処分を行う。
廃棄をする場合には、内容物を完全に排出した後に行う。
汚染容器及び包装： 残留した内容物を排出するときは、必ず風通しの良い火気の無い屋外で行う。
気化し多量の可燃性蒸気を発生する液化ガスが内用液に溶解しているため、回収するときはガスが抜けてから容器を密閉する。
中身が出なくなるまで排出した後でも破裂する恐れがあるので、火中に投じない。

１４．輸送上の注意

国際規制：
国連番号： 1950
品名： エアゾール（引火性のもの 1 L を超えない）
国連分類： 2.1
容器等級： 非該当
海洋汚染物質： 該当
MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質：
非該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：
国内規制がある場合の規制情報
陸上輸送： 消防法、道路法等の輸送について定めるところに従う。
海上輸送： 船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送： 航空法に定めるところに従う。
緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号：126

１５．適用法令

化学物質排出把握管理促進法(化管法)：非該当（2023 年 4 月 1 日以降　非該当）
労働安全衛生法： 危険物・引火性の物:：
危険物・可燃性のガス(プロパン、ブタン)
名称等を表示すべき危険物及び有害物：ブタン、ヘキサン
名称等を通知すべき危険物及び有害物：ブタン、ヘキサン
有機溶剤中毒予防規則： 非該当
毒物及び劇物取締法： 非該当
化学物質審査規制法： 特定化学物質、監視化学物質に該当しない。
優先評価化学物質： n-ヘキサン、シクロヘキサン
労働基準法： **疾病化学物質：**ヘキサン
船舶安全法： 高圧ガス
航空法： 高圧ガス
高圧ガス保安法： 適用除外(液化ガス、可燃性ガス、圧縮ガス)
但し、政令告示並びに一般高圧ガス保安一般規則規定に従う。
消防法： 第 4 類 第 1 石油類(非水溶性)

１６．その他の情報

参考文献:

原料 SDS
NITE 化学物質総合情報提供システム
NIHS 国際化学物質安全性カード
環境省 Chemi coco
労働安全衛生法対象物質データ
JIS Z7252:2019　JIS Z7253:2019
Globally Haronized system of classification and Labelling of chemicals (GHS) UN ST/SG/AC.10/30/Rev.8

記載内容の取扱い:

本 SDS は、JIS Z7253:2019 に準拠し、作成している。
全ての資料、文献を調査しているわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。
また、新しい知見の発表や従来の説の改訂等により内容に変更が生じることがあります。
記載された情報は、情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の有害性があるため、取扱いは細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。